

河口閉塞の影響

■河口の閉塞の影響

七北田川河口は砂が堆積し、河口は大変小さくなっていった(Fig.1,2)が、今回の調査では完全に閉塞していた(Fig.3)。Fig.1とFig.3の丸で囲んだ部分は同じ水門である。閉塞した結果七北田川からの淡水が滞留し、干潟と川の境界付近(Fig.4囲み部分)の表層はほぼ淡水であった。河口付近の川幅も確実に広がっている。

投網による採集ではオオクチバスを2匹採集した(Fig.5)。オオクチバスは塩分が入る水域にも侵入することがあり、名取市閉上で採集された例がある。しかし少なくとも自分はこれまで蒲生干潟で採集したことはない。今回の調査ではクロダイや、メジナ、マハゼなども採集できたが、淡水化が進んだ場合これらの生物が影響を受ける可能性も否定できない。



Fig.1 七北田川河口付近(8月9日)



Fig.2 七北田川河口(8月9日)



Fig.3 閉塞した河口



Fig.4 干潟と川の境界付近



Fig.5 オオクチバス